



# 学校だより

令和6年 2月 28日

No. 10 3月号

横浜市立瀬谷第二小学校

校長 山崎 由美

学校教育目標

**友情わく かわく 希望わく 毎日わくわくする学校**



## 温かい春に向かって

校長 山崎 由美

1月下旬に届いた大谷選手からのグローブを、2月の朝会でお披露目し始球式を行いました。当日を迎える前に始球式でキャッチボールをする児童を募集しました。全部で137名の応募児童の中から1年生、3年生、5年生が選ばれました。給食中にテレビで抽選会を行ったのですが、番号が読み上げられるとその教室から大きな歓声や祝福の声が聞こえたそうです。ある子は「やった。」と担任に飛びついて泣き出したそうです。微笑ましい光景があちこちで見られたのも大谷選手のおかげです。最初は児童のみで行うつもりだったのですが、「先生たちはやらないの。」という声を受け職員の抽選も同時に行いました。職員の名前が読み上げられると「おめでとう。」や「やったね。」という声と同時に学年のフロア全体が歓喜に包まれたようです。大変な盛り上がりを見せた抽選会でした。

朝会当日、わくわくした雰囲気は漂う中、始球式が始まりました。抽選会で選ばれた児童は3人とも野球初心者でした。私は、てっきり野球をやっている自信のある子どもたちが出てくるものだと思い込んでいたので、驚くと同時に「できる」「できない」が子どもたちの判断の基準でなかったことをうれしく思いました。大谷選手の気持ちを体現してくれた本校の子どもたちを誇らしく思います。3人のキャッチボールは全校の温かい空気に包まれて行われました。ボールがグローブに収まると拍手や歓声が起こり、ボールが落ちると「頑張れ。」という励ましの言葉が聞こえました。

このグローブをどう使うかの話し合いを任された5年生の児童運営委員たちは、事前に大激論を交わしていました。“3つとも使おう”という意見と“使うと消耗してしまうから1つはシンボルとして飾ろう”という意見がどうしても折り合いがつかず何度も集まっては相談をしました。結果は3つとも使うことになりましたが、最後の決め手は大谷選手からの手紙とグローブが3つとも違うということでした。今年度は卒業したら使えなくなってしまう6年生は4回、その他の学年は1回ずつ決めてクラスを回ることになりました。今は順番に、決められた場所でみんながうれしそうに使っています。“できる。できない。ではなくやってみようという気持ちをもつこと” “初めてのことで挑戦し自分の世界を広げ、夢をもつこと” そんなメッセージが子どもたちにしっかり届いています。こんな機会を与えてくれた大谷選手に改めて感謝したいと思います。

いよいよ、3月18日に107名の6年生が本校を卒業します。小学校生活の半分が密を避け、マスクをして過ごした子どもたちです。しかし、当たり前前ではなく、当たり前のことを実感し、そんな中でも楽しむ術を見つけてきた子どもたちです。この春期待を胸に新しい生活に向かっていきます。中学生になるとはいつてもまだまだ未熟なところがたくさんあります。これからも卒業生のみならず在校生も温かく見守り、支えていただけますようよろしくお願いいたします。

今年度も残り1か月となりました。皆様のご理解とご協力、本当にありがとうございました。

☆瀬谷第二小学校ホームページに、日々の学校の様子を、「わくわくレポート」として不定期でアップしています。合わせてご覧ください。

